

平成 21 年 9 月 14 日

GGGの生物多様性調査結果等を取り上げた新刊書  
『ゴルフ場は自然がいっぱい』が 9 月 7 日に発刊  
～フェアウェイのかたわらで、「日本の自然」がよみがえる～

主に森林・林業や田舎暮らしをテーマに執筆活動を行う森林ジャーナリスト・田中淳夫氏が、現代の里山としてゴルフ場が果たしている役割について執筆した『ゴルフ場は自然がいっぱい』（筑摩書房/ちくま新書 240 頁・税込 777 円）が 9 月 7 日に発刊されました。

著者・田中氏は同書序文で「私はゴルフをしない。今後もすることはないだろう」と言うノンゴルファーで、自身もゴルフ場といえば森の敵だと常識的に思っていたが、「ゴルフ場って本当に自然破壊なのか」と批判するなら、ちゃんと検証する必要があると思い、約 10 年前から本著の執筆を決意し紆余曲折を経てこのほど発刊に至ったと述べています。

内容は、ゴルフ場は「環境破壊の元凶」として語られた過去をもつが、いまやゴルフ場では草花や樹木、池、草地が良好に管理され多様な生態系がよみがえり、日本の森から消えていった絶滅危惧種に指定されている動植物ものびのびと生きていることを、「日本のゴルフ場開発の歴史的背景」「ゴルフ場反対・批判」「ゴルフ場開発がもたらした自然の変化」「ゴルフ場農薬の検証」「ゴルフ場の環境機能」、そして「日本の里山に迫る本当の危機」についてゴルフ場の環境負荷を順序だてて検証し、人と自然がふれあう“現代の里山”としてゴルフ場が果たせる役割を述べています。

執筆に当たっては、当会大西久光理事長も取材を受け、また今年 5 月に公表した全国のゴルフ場の動植物生態調査結果を取り纏めたレポート『豊かな生物多様性を持つゴルフ場』のデータも提供いたしました。

ゴルフ界関係者のみならず広くゴルファーの方々や一般の方々にも現在ゴルフ場が果たしている役割をご理解いただく著書として紹介するものです。



本件問合せ先

(社)ゴルファーの緑化促進協力会 担当：麻生、染谷  
電話；TEL：03-3584-2838 FAX：03-3584-2847